

日本の古代史とその文化シリーズ5

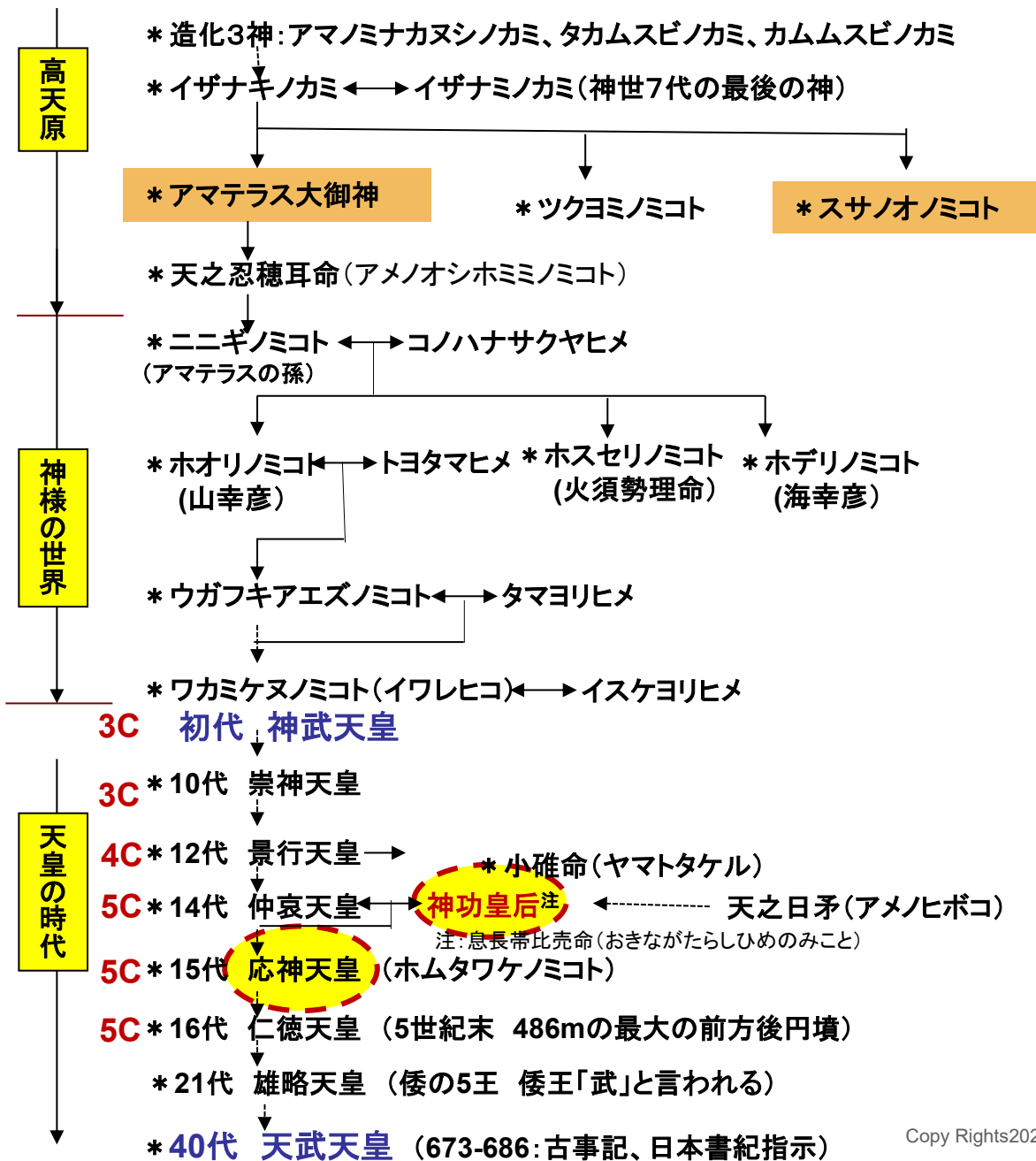
第三部「宇佐・宗像・住吉信仰と海神の神」

参照資料 I : 宇佐大社

参照資料1- 1:宇佐神宮境内

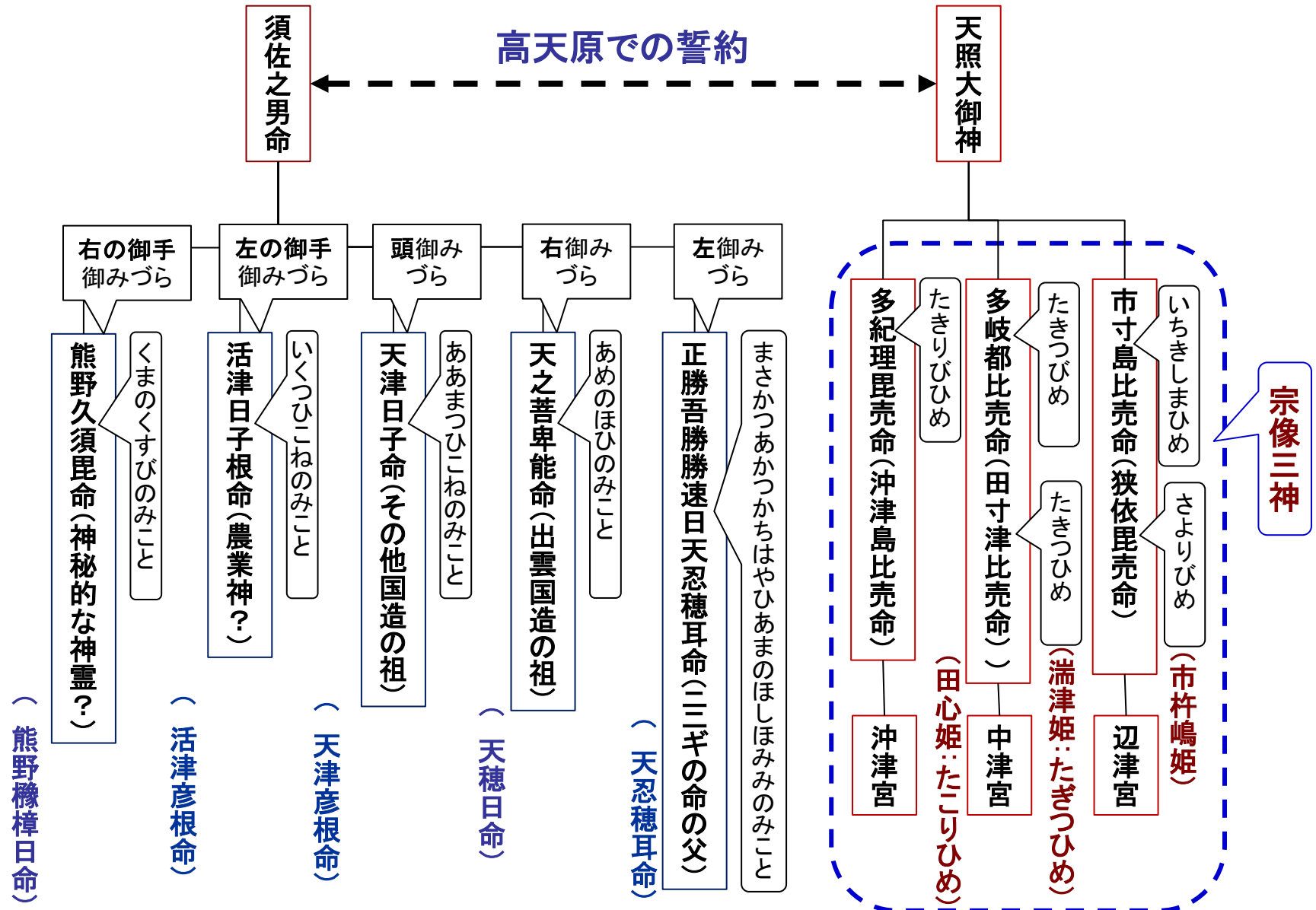


参照資料1-2: 神と天皇系譜

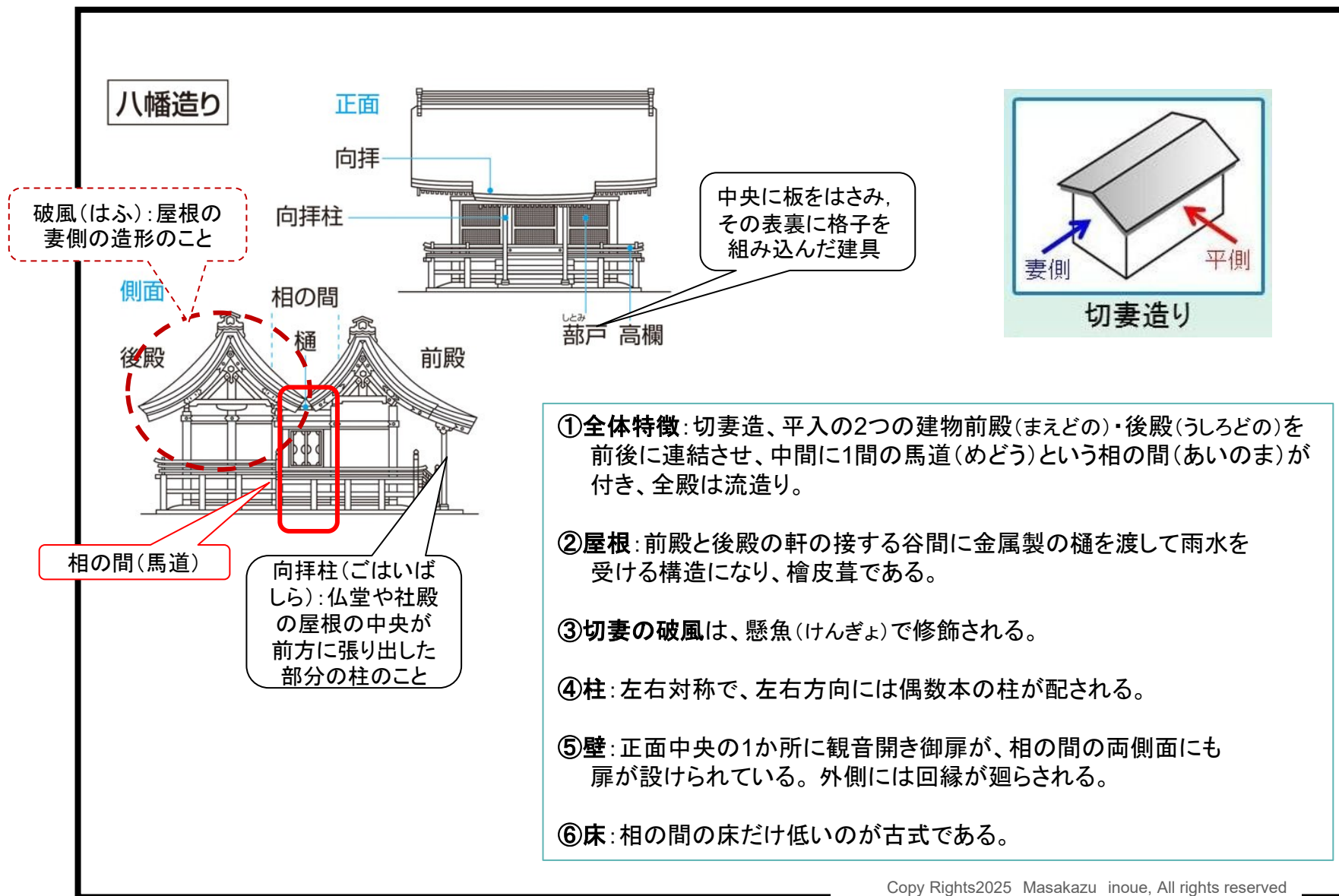


参照資料1 - 3 : 誓約により成った神(書紀記述ベース)

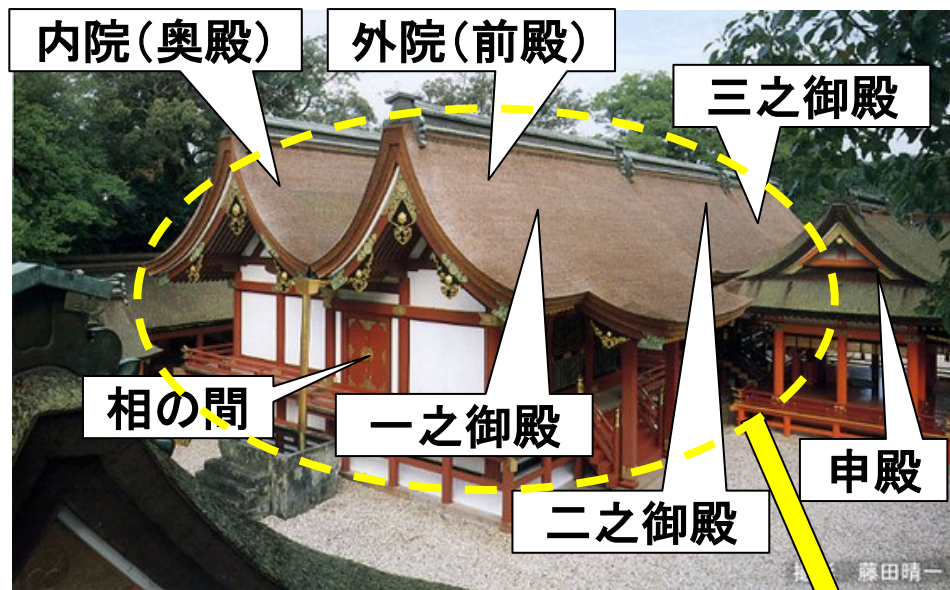
注: 神名は古事記、()内は書紀での表記名



参照資料1 - 4: 建築様式(八幡造)



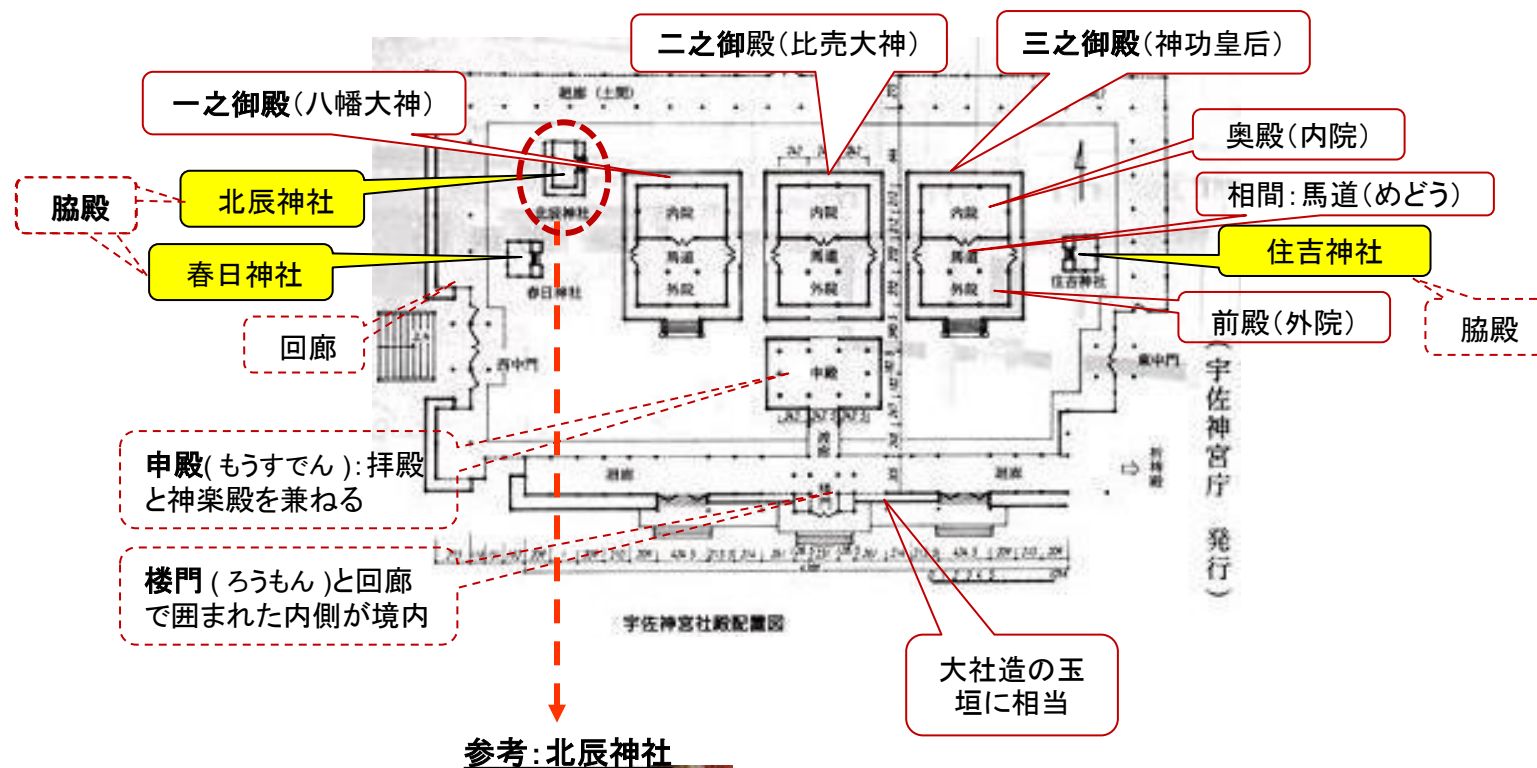
参照資料1 - 5 : 宇佐神宮(八幡造)



出典: ウィキペディアから図柄引用



参照資料1 - 6 : 宇佐神宮境内と本殿



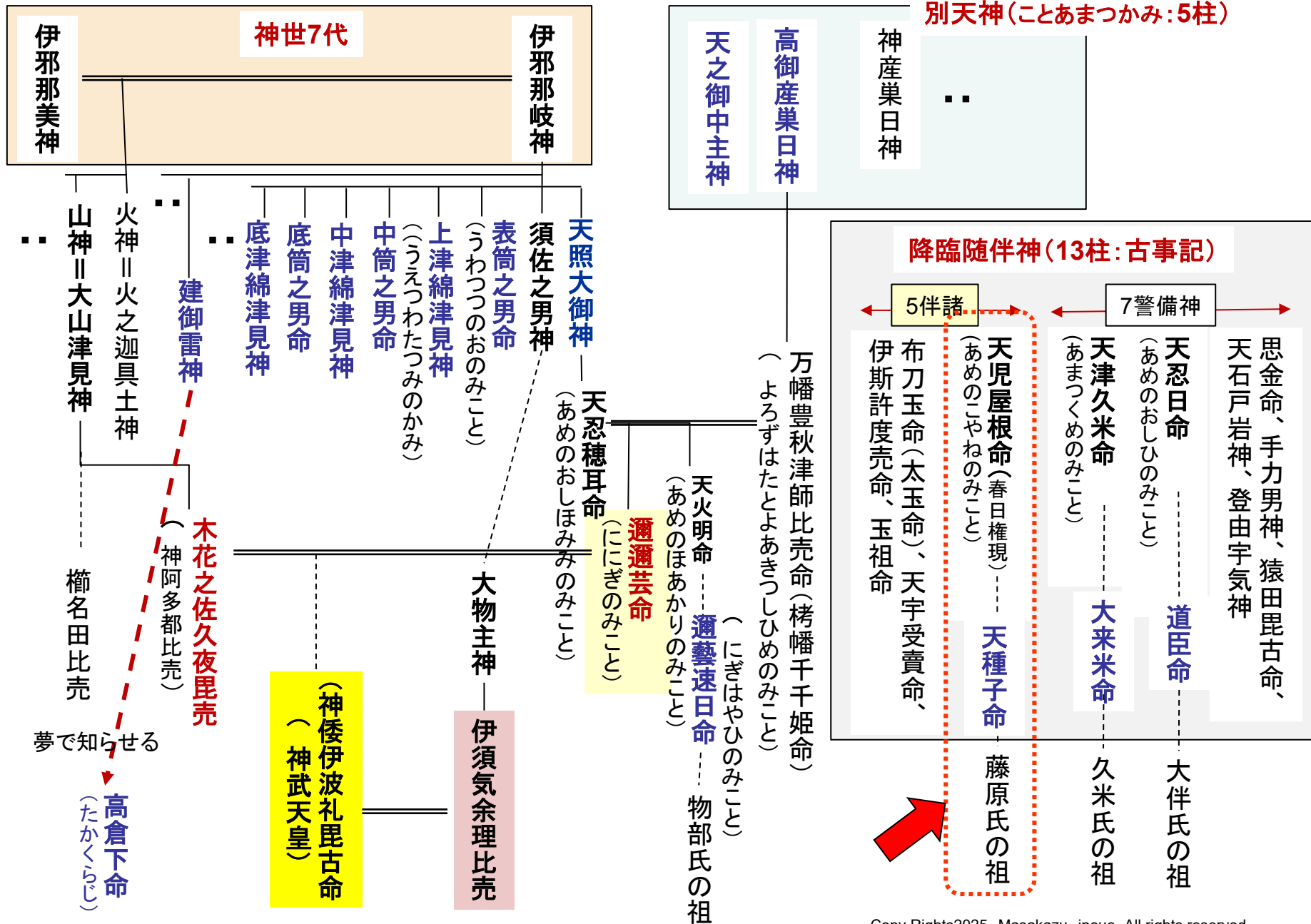
出典: ウィキペディアから図柄引用

参照資料1 - 7 : 宇佐神宮境内の摂社・末社

注: 宇佐神宮の主祭神にはすべて脇殿がある。

摂・末社	神社名	事項
摂社	若宮神社	天長元年(824)、ご神託によって大鷦鷯尊(おおさざきのみこと、仁徳天皇)を祀る。
摂社	春宮(とうぐう)神社	祭神 菟道稚郎子命(うじのわきのいらつこのみこと)。応神天皇の御子神で仁徳天皇に皇太子を譲った弟神。
摂社	住吉神社	住吉大神が祭神。三之殿の脇殿。
摂社	宇佐祖(うさそ)神社(頓宮)	御祭神 菟狹津彦 菟狹津媛。神武天皇を一柱騰宮(あしひとつあがりのみや)で大御饗(おおみあえ)した国つ神。宇佐の国造、大宮司の祖神。
摂社	黒男(くろお)神社	武内宿禰が祭神。景行天皇より5代の天皇に仕えた功臣。特に応神天皇に厚い。
摂社	大尾(おお)神社	大尾山頂にあり、和氣清麻呂が道鏡事件に際して、国体護持の御神教を授かった。当時(769年)、八幡大神は厭魅(えんみ)事件に関与し、大尾山にあった。
摂社	大神祖(おおがそ)神社	御祭神は八幡大神を顕した大神比義翁の霊を祀る。
摂社	大元(おおもと)神社	宇佐神宮の奥宮とされ、比売大神(ひめおおかみ)の降臨の地とされている。
末社	護王(ごおう)神社	御祭神は和氣清麻呂朝臣命。御神教を受けた大尾(おお)山の山腹に祀る。
末社	八坂神社	須佐之男命を祀る。この神社の前で、毎年二月十三日に鎮疫祭(ちんえきさい)が行われる。
末社	木匠祖(もくしょうそ)神社	宮大工・寺大工・桧皮師・塗師の職人達と、近郷近住の職人の守護神。
末社	北辰神社	造化三神を祀る。上宮の地主神でもある。二之殿の脇殿で西中門内に鎮座。
末社	春日神社	天児屋根命が祭神。一之殿の脇殿。磯の童が神功皇后を助けた由来で、この童は筑前では志賀島明神、大和では春日大明神。安曇磯良(あずみいそら): 志賀島明神(天児屋根命)
末社	八子(やこ)神社	誓約の5柱+3柱 八幡大神の八王子神を祀る。玉垣内の神木、楠に鎮まり座す。
末社	亀山神社	大山積命が祭神。上宮の鎮座する小椋山は亀山ともいい、亀山の守護神。
末社	椎宮(しいのみや)神社	神武東征時、海の案内をした椎根津彦命を祀る。
その他末社	平野神社、善神王(ぜんじんおう)神社、水分(みくまり)神社、百体(ひゃくたい)神社	

参照資料1 - 8: 神武東征で関係する神々系図



参照資料1 - 9: 宇佐神宮歴史年表

西暦	和暦	事項
	上代	市杵嶋姫命・湍津姫命・田霧姫命の 三女神 、 宇佐嶋に天降る 。
	神武天皇即位前期	神武天皇東征の折、 菟狹津彦・菟狹津媛 、 菟狹川の川上に一柱騰宮を造営する 。
	応神天皇1	応神天皇即位 あしひとつあがりのみや
	+雄略天皇御代	雄略天皇病気により、豊国の奇巫(ふげき)召し上げられる。
531	継体天皇25	北魏善正、 彦山(英彦山)を開く 。 ほくぎのぜんしょう
→ 571	欽明天皇32	八幡神顕現 し、大神比義が祀る。
587	+用明天皇2	用明天皇病により、豊国法師が内裏に参内する。
703	大宝3	医術により僧法蓮に田40町を賜う。 宇佐の辛島郷に
→ 712	和銅5	鷹居社を造り、八幡大神を祀る 。
720	養老4	豊前国守宇努首男人、将軍として八幡神を奉じ、 大隅・日向の隼人を攻め、後放生会を開始
721	+養老5	医術により僧法蓮の家族に、 宇佐君姓 を賜う。
→ 725	神亀2	小椋山(現在の本殿地)に八幡大神一之御殿を遷座 する。また、東方の日足に弥勒禅院を建立する。
→ 731	天平3	八幡宇佐宮、 官幣に預かる 。
→ 733	天平5	天平3年の 託宣 により、 二之御殿に比売大神鎮座 する。

西暦	和暦	事項
743	*天平15	聖武天皇、大仏を造る事を発願する。三重塔建立(東塔)
746	天平18	聖武天皇不豫(ふよ)の祈禱に験あり、八幡大神に三位を与える。 封戸400戸、僧50口等寄進される。
749	*天平21	聖武天皇、東大寺建立のため八幡宮に祈り、 神託により黄金出土 する。 陸奥の金、長門の銅
752	天平勝宝4	東大寺大仏開眼する。
769	*神護景雲3	八幡神の教えとして道鏡の天位 託宣あり 、和氣清麻呂宇佐八幡に詣で、道鏡の野望をくじく。
→ 780	宝亀11	小椋山に八幡宮造営 。
→ 781	天応1	八幡大神に、 護国靈験威力神通大菩薩 の尊号を上げる。
814	弘仁5	最澄、渡唐を願い、八幡大神、香春神に法華経を講ずる。
821	弘仁12	大神・宇佐二氏を宇佐宮宮司に任ずる 。
→ 823	弘仁14	八幡宮に神功皇后(三之御殿)を祀る 。空海、八幡神を東寺に勧請する。
→ 810 ~ 824	弘仁年中	下宮を造立す 。
855	斉衡2	東大寺完成を宇佐八幡宮に報告する。

出典: 宇佐神宮社史(宇佐神宮庁出版)